



平成 30 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 旭ダイヤモンド工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 片岡 和喜
(コード番号 6140 東証第 1 部)
問合せ先 取締役管理本部長 鈴木 徹
T E L (03) 3222-6311

連結業績予想値と実績値の差異及び 個別業績と前期実績値の差異に関するお知らせ

平成 30 年 2 月 9 日に公表しました平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の連結業績予想値と、本日公表の実績値において差異が生じたので、お知らせいたします。

また、平成 30 年 3 月期の個別業績と前期実績との差異が生じたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想値と実績値の差異(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 30 年 2 月 9 日公表)	百万円 45,600	百万円 4,300	百万円 4,740	百万円 3,170	円 銭 56.92
実 績 値 (B)	45,458	4,640	5,074	1,614	29.00
増 減 額 (B - A)	△ 141	340	334	△ 1,555	—
増 減 率 (%)	△ 0.3	7.9	7.0	△ 49.1	—
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 3 月期)	42,024	2,645	2,945	2,487	44.34

2. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想値と実績値の差異の理由

平成 30 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間において、太陽電池市場の急激な悪化による太陽電池価格の下落に伴い、電着ダイヤモンドワイヤ市場において、需要の軟化、供給過剰状況及び価格の急激な低下が発生したことにより、ダイヤモンドワイヤの受注数量が減少いたしました。このため同製品での将来の収益性について投資額に対する回収可能性を検討いたしました。その結果、投資額の十分な回収が困難と見込まれるため、電着ダイヤモンドワイヤ製造設備に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表予想から大きく減額いたしました。

3. 平成30年3月期通期個別業績と前期実績値の差異(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) (平成29年3月期)	百万円 33,948	百万円 1,808	百万円 2,165	百万円 1,899	円 銭 33.86
実績値(B)	36,400	3,296	3,876	995	17.87
増減額(B-A)	2,451	1,487	1,710	△ 903	—
増減率(%)	7.2	82.2	79.0	△ 47.6	—

4. 平成30年3月期通期個別業績と前期実績値の差異の理由

平成30年3月期は、電子・半導体業界向け売上高は前期を上回る結果となり、また輸送機器・機械及び石材・建設業界向けも堅調な状況にあり、前期を上回る売上高となりました。利益面におきましては、原価低減等により、営業利益、経常利益とも増額になりましたが、上記2に記載のとおり減損損失を特別損失に計上したため、当期純利益が前期実績から大きく減額いたしました。

以 上